



お話しいただいたのは
近藤 嘉人先生

vol.185

こんどーせんせいの 「こどもはスゴイ!」



絵本のチカラ、再発見!

読む声を聞くだけでも
脳の発達に大きくプラス
になるのです。

思い出

待合室にも診療室にも、私たちの医院には絵本や図鑑があふれています。それが、楽しい雰囲気にも、子どもたちの成長にも役立つと日々感じるのですが、今日はいくつかのエピソードを紹介します。

読みあい

2才の男の子はフッ素でじっとしているのが苦手です。すぐに受付保育士が絵本を開いて「読みあい」を始めます。「きんぎょはどこにいるかな〜」。次第に「ここ」と絵を指さして「読みあい」に加わってくれました。もう、落ち着いています。

私たちは大人が子どもに読んで聞かせる「読み聞かせ」ではなく、大人と子どもがやり取りしながら楽しむ「読みあい」をおススメしています。絵本に触れることで子どもの不安が消え、スムーズに診療できる体験をするたびに、絵本が持つチカラを感じます。

イヤイヤ対策

4才の女の子がゆっくりと絵本を読み上げる大きな声が響いていま



す。いつの間にか大人も子どもも、診療室にいる全員が、その声に聞き入ってしまいました。赤ちゃんの「夜泣き」や「人見知り泣き」、カンシャクを起こしてママやパパの言うことに耳を貸さない2〜3才の「イヤイヤ期」があるのは、ヒトの脳の発達がほかの動物に比べてゆっくりなため、育て方が悪いわけではないそうです。

感情や行動の行き過ぎは脳の「前頭前野」が抑えていて、ほかの動物は生まれてすぐその抑えが効いているのに、ヒトは体験を重ねて少しずつ抑えを学習していくそうです。

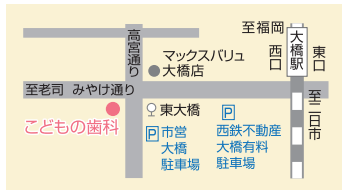
では、どう体験するのがいいのかわかる。キーワードは「わかりやすい決まりごとを守る」こと。具体例として絵本を使う方法があります。

ふたり一組になり、ひとり絵本を声に出して読み、もうひとはひと言もしゃべらずお話を聞きます。次に役割を交代し、読み上げた子は聞き役に務めます。このように、ほんの少しガマンすることを自然に覚え、繰り返すことで抑えを学習するといふわけです。

テレビやスマホと違い、ヒトが間に入る絵本に触れると、五感が刺激され、脳の情報伝達が活性化することはよく知られたことです。絵本を

情報クリップ

「絵本の日アワードinFUKUOKA」に全国から応募していただいた、心あたたまるエピソードを集めた本ができました!『絵本はホスピタリティーの宝箱 エピソード33』全国の書店で絶賛発売中です!詳しくは公式ホームページでもご覧いただけます。『絵本の日』で検索してください。



こどもの歯科

日曜日も診察しています

診療科目 小児歯科・矯正歯科
診療時間 9:00~18:30
(昼休み12:30~14:00)
【休診】木曜・祝日

福岡市南区大橋3-2-1 大橋プラザ2F

☎092(551)8080

http://kodomonoshika.com